介護DXを利用した抜本的現場改善事業事業

公開用

課題名：要介護者の自立支援を抜本的に改善するDXパッケージの効果検証

代表機関／代表者：株式会社ノバケア／岡本茂雄
分担機関: （株）FUJI、ノーリツプレシジョン（株）、（株）ブライト・ヴィー、（株）ワイズマン、（社福）さくら福祉会、（株）リースステージ
研究期間：令和７年８月～令和８年３月

研究開発目的

- 利用者の自立支援の質の向上と尊厳の保持
- 職員の身体的・心理的・時間的負担の軽減
- 支援の可視化と科学的介護の実践

取り組み

- 移乗支援ロボット利用データの取得・転送機能の開発
- 移乗支援ロボット利用データの在宅介護支援システムへの転送機能の開発
- 見守りセンサの検知データ・リアルタイム画像の転送機能の開発および、在宅での設置を前提とした省スペース機器の開発・検証
- 介護DXパッケージの効果評価ソフトウェアの開発
- 介護DXパッケージの効果評価実証試験

期待される成果

- DXパッケージの連携により、「移動・排泄・入浴」といったADL中核動作における支援実績がリアルタイムで蓄積・分析され、本人の能力や行動傾向に応じた個別ケア設計が可能となる
- ロボットログ、記録システムが自動連携・反映されることで、見守り・記録・申し送りといった間接業務が20～30%削減され、職員が「人に向き合うケア」に専念できる
- DXパッケージで統合された支援記録・行動履歴・ADLスコアをもとに、BI・FIM・QOL・ログデータを活用した科学的介護のアウトカム評価が可能となり、ケアの質が“見える化”され、家族・地域・保険者からの信頼性が向上する

導入する介護テクノロジー

移乗支援ロボットHug

見守りセンサNeos+Care

データ連携プラットフォーム

ケアデータコネクト

在宅介護サービス
支援システム

2025年10月時点